

受入先	南九州市茶業振興会
役職	
隊員氏名	窪 拓摩
着任日	令和3年2月1日

活動月	令和3年11月（着任0年10カ月目）
主な活動	1 知覧茶マルシェ 2021 オンライン/オフライン 開催！ 2 外部企業との連携、ブランディングづくりの商談 3 SNS 強化での情報発信、地域を超えた情報交流への注力

1. 知覧茶マルシェ 2021 オンライン/オフライン 開催！



本年最後となる大きなイベント「知覧茶マルシェ 2021」が、オンライン/オフラインの2軸で同時開催されました。

私が常に意識していることは「結果」を必ずつけることで、今回オンライン/オフライン両方で企画から集客を行い、関係各所との連携をはかりながら進めたことは非常に苦勞をした点です。

現地開催では、川辺にある岩屋公園を会場とし、当日1,000名を大きく上回るご来場となり、またオンライン配信では600名ほどのライブ参加、12/1段階でおおよそ1,500回の動画再生で閲覧をいただく結果となり、タイ

トに結果を求めた末に数字に繋がったと強く感じています。



写真：知覧茶マルシェ 2021 風景など

イベント当日は、鹿児島市のアミュプラザなど県内各地でお茶いっばいの日イベントが開催されたようで、夕方地元テレビ局 KYT よりイベントの内容を放送いただき、認知度向上の発信ができたと思います。

改めまして関係各所の皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2. 外部企業との連携、ブランディングづくりの商談

私が着任後注力している柱の一つ「外部企業の連携」において、10月に川辺の森の学校で開催されたイベントのつながりから今回ご案内をいただき、12月中旬に鹿児島市にあるライカ南国ホールでのクリスマスイベントに参加することとなりました。

今までの知覧茶店頭販売というスタイルではなく、イベントの空間づくりに溶け込んだ中での「知覧茶」という新たな層へのブランディングを着々と進行している状況です。

最近では、いわゆる若い層の方々がお茶に興味・関心を持った際によく対比される「コーヒー」と「お茶」について考えるシーンが多々あります。コーヒーを例に挙げると、知識や経験が深くなっていくとこだわりの豆を探し購入します。そして、時間をかけてハンドミルやグラインダーで豆を挽き、ハンドドリップのようなスタイルでゆっくりとコーヒーを抽出します。

写真：12/18,19 開催 ライカ xmas イベント案内書

この、わざわざ時間をかけてする一連の作業に「付加価値」を見出す方々が多く存在するコーヒー文化に対し、お茶はどうでしょう。

リーフ茶を選び購入し、一度沸騰したお茶を湯ざましするまで待ちます。そして、急須に茶葉と適温にな

ったお湯を注ぎ、茶葉が開いてくるのを待ち、お茶を楽しむという流れは、とてもよく似ていると思います。しかし、お茶においては、何故か急須を使って淹れることを「面倒くさい」や「難しそう」といったネガティブワードが先行しがちです。

お茶もコーヒーも、最初はペットボトル、缶コーヒー、そのうちドリップパックを飲むようになり、いつしか本格的な器具を用いて楽しむような段階的な流れがあると強く感じています。

何も最初から無理して急須で淹れなくても、やがて行き着ところは急須で淹れる本格的なお茶なのだと考え、まずは知覧茶を知るきっかけづくりを現在進めています。



写真：感度のいい方々はお茶単体はもちろんのこと、知覧茶との「ペアリング」について探求されている傾向にあります。

3. SNS 強化での情報発信、地域を超えた情報交流への注力



写真：知覧茶ポスターデザイン審査会風景 ▼詳しくは下記をチェック

<https://www.chirantea.com/?lang=ja&fbclid=IwAR2Lznty1k632MNZycIEbtpgQ5chyqUj4ahpmQ4YiFvjVSz1CEmScCn0dHA> 知覧茶ポスターデザイン大募集！

9月末まで作品募集をしておりました「知覧茶ポスターデザイン」の最優秀作品やその他受賞作品を決

める選考会も、いよいよお茶いっぱいの日に受賞作品を発表する運びとなり、夜遅い時間まで関係各所のご協力ものと審査会で熱いご意見を交わしながら決定いたしました。
ご提出いただいた作品数は319点にもおよび、知覧茶の認知度向上、より短身に感じていただく企画となったと強く感じているところです。



写真：番所公園内のイベント「Agribits Farmers Market」の実施

また、本年10月より頼娃おこそ会に所属をしている原本さんと進めている公園利用のイベントの一つで、私が主催をしているファーマーズマーケット Agribits(アグリビッツ)を報告いたします。

名前の由来は、「Agriculture(農業)」と「just a bit(ほんの少し)」を組み合わせた造語となっており、農業が盛んな豊食の産地南九州市を舞台に、既存の販路に加え、作り手と消費者が直接お話しできる接点づくりのイベントとして展開している状況です。

茶業関連の視点からみた場合、茶農家の方々の多くは兼業農家として野菜や果物、園芸などを営んでおり、本イベントを通じて茶業以外での収入やファンをつくる良いきっかけとなっていくと確信しているところです。

以上、簡単ではございますが当月の報告と致します。